

北中校内研修だより

平成 23 年 6 月 29 日 授業実施
授業者 坂爪新太郎

1 年 4 組 「話し言葉と書き言葉」

～会話から、「話し言葉」や
「書き言葉」の特徴を見つけよう。～

【授業の流れ】

「話し言葉」や「書き言葉」の特徴を、日頃の言葉遣いから見つけ出すことを通して、相手や場面を意識した言葉遣いができるようにすることを授業のねらいにしました。



初めに、スピーチと会話の違いについて考えたあと、グループで会話を録音します。でも、いきなり普段の会話をしろと言われても、それはそれで難しいものです。そこで、「マッチ棒パズル」を用意し、普段から、友達同士で会話している様子を再現してみました。生徒たちは、夢中になってパズルを取り組む中で、日常の会話が自然に行われ、学習に最適な資料を手に入れることができました。

この録音された会話は、日常生活の中では聞くことがほとんどない、自分たちの会話を改めて聞くことで、どんな言葉を話しているのかを改めて見直す機会となり、自分自身の話し言葉について改めて見直すことができたようでした。その会話とスピーチを比べることで、疑問に思う点が一つ見つけられます。それが「言葉遣い」の違いです。友達との会話とスピーチとは、話し方も使う言葉も変わってきます。その理由について考えてもらいました。

生徒たちは、普段の会話から自然と使い分けがなされています。しかし、意識して使い分けしているのではなく、経験的に身につけてきたことがほとんどでしょう。その経験的な知識が、今回の学習によって根拠が明確になれば、普段の会話でも、相手や場に応じた言葉遣いが自然と変化してくるはずです。実際、生徒たちは、相手との関係が言葉遣いに影響をすることを理解してから、意図的に使い分けしている姿が見られるようになってきました。

【授業を参観していただいた先生から】

《良かったところ》

- ・準備がしっかりとしてあり、スムーズに授業が進んでいた。
- ・IC レコーダーを使って録音する試みは新鮮で、生とも意欲的に取り組んでいた。
- ・最後の授業の感想を述べ合う場面では、ねらいが明確であったことから、子どもたちがしっかりとねらいに到達できていた事がうかがえた。

《改善点・課題》

- ・少人数グループでの活動にすれば、もっと話し合いに積極的に参加できたのではないか。
- ・ヒントカードを全員に一枚ずつ配布することで、個々の学習が保証されるのではないか。
- ・様々な相手を想定させて、言葉遣いを考えさせることで、さらに理解が深まるのではないか。